

茨城農産物の地産地消の取り組みについて(一問一答) 金子 晃久 議員

質問

茨城をたべよう運動推進協議会が発足し常総市も会員として名を連ねている。地産地消の取り組みが農林漁業の継続的かつ健全な発展、農産、漁業村の活力の再生、消費者の利益の増進、食糧需給率の向上等に重要な役割を果たすとともに、地域資源の有効な活用、食品循環資源の再生利用、環境への負荷等の低減等の効果を有するものであることをかんがみ、生産者、事業者、消費者が一致協力して地域の農林水産物利用の推進を図るもので、PR事業や「茨城を食べようday」を設定して、県民の意識を向上させる取り組みが行われている。

また、啓発活動として、ロゴの入ったクリアファイルを県内の小学5年生に配布する計画となっている。

①県を挙げて茨城の特産物の地産地消運動を繰り広げている中で、常総市の取り組みや今後の計画を聞きたい。

②学校給食の地産地消の現状と子供たちの意識向上についての取り組みを伺う。

答弁(産業労働部長)

①当市では、学校給食への地元農産物の利用促進を進めるとともに、生産者団体等が立ち上げた農産物直売所に対して支援を行ってきた。今後も引き続き支援を行っていく。

また、茨城をたべよう運動推進協議会の活動に積極的に参画し、地産地消に取り組んでいきたい。

答弁(教育部長)

②常総市で生産された食材の使用割合50%を目標に実施している。23年度の実績で、常総市産が47・6%、茨城県産が19・3%となっている。子供たちの意識向上については、献立表や給食センターニュース等により、生産者や栄養価などを紹介している。

さらに、家庭とも連携して食育の重要性を理解していただくよう努めている。

質問

地元の味を覚えるということは、地元に着着がわくということと同意義ではないかと思う。その意味で、地産地消というものは大変重要な役割を担っているのではないかと考える。

最後になるが、「茨城を食べようday」のクリアファイルを配布する準備はできているのか。

答弁(教育部長)

連絡は来ているが、物は届いていない。

(その他の質問)

○情報インフラ整備(次世代ネットワーク)の状況と進捗について

○つくば下総広域農道(ア



いばらきを食べようdayイベントの様子

グリロード)の管理について

○三妻小学校のバス、電車の活用について

○地域交流センター(豊田城)の活用について

肺炎球菌予防ワクチン接種の補助金の増額について(一問一答) 中島 亨一 議員

質問

①後期高齢者を対象とした増額について。

70歳未満の方の原因の大半がマイコプラズマという病原体による肺炎で、高齢になるに従って肺炎球菌による肺炎ということになる。肺炎球菌予防ワクチン接種の助成金について、9月議会を出してもらえようになったが、アピールが足りないのか、利用者がまだ300名にならない。肺炎が日本人の死亡要因の第3位になっており、高齢者にとつては脅威である。

肺炎球菌は80種類くらいあり、そのうち23種類を予防することによって、大体80%くらいの肺炎球菌による肺炎を防ぐことができるということなので、もう少し助成金を増やして、高齢者、特に後期高齢者への助成を行ってほしい。

後期高齢者医療制度の

答弁(保健福祉部長)

肺炎球菌予防ワクチン接種の補助事業は今年10月から実施している。公費負担額の状況を全国規模で見ると、実施している半数以上の市町村が3000円となっており、常総市でも3000円の助成とした経過がある。

後期高齢者医療制度の特別調整交付金について、県内の保健事業の総額が交付限度額を超えてしまふと助成されないこともある。その際には、後期高齢者医療広域連合との協議が必要で、後期高齢者への増額については、協議の中で調整することになる。

質問

肺炎球菌によって命を落とすしてしまう高齢者に